

20130729

2013年7月29日　日本テレビ 定例記者会見

《要旨》

1. 視聴率動向と編成戦略

・視聴率データ

先週（7月22日～28日）の週間視聴率で、単独三冠王を獲得。さらには、月間（7月1日～28日）でも、昨年の9月以来となる三冠王を獲得した。7月改編の成果が数字に表れてきたものだと考えている。

・愛は地球を救う 24時間テレビ36

8月28日に開局60年の記念日を迎える。この日に向けてこれまでさまざまな特別番組などを放送してきたが、その集大成とも言うべき「愛は地球を救う 24時間テレビ36」を8月24日、25日に放送する。節目の年にふさわしい「24時間テレビ」にしたいと考えており、今まさに、社員、スタッフが一丸となって番組制作に取り組んでいる。例年以上に盛り上げ、「日本テレビの存在」を視聴者の皆様にさらに理解していただけたらと思っている。なお、PR活動などが奏功した結果だと思うが、チャリTシャツがこれまでにない勢いで売れている。

・7月期ドラマ

水曜ドラマ「Woman」は、知名度が少し低いという事前の調査結果が出ていたので、様々なPRを試みたが、ニコニコ動画で「1万人限定ネット試写会」を初めて開催したことが功を奏した。ネット上には「感動した」、「元気付けられた」、「シングルマザーの生き方を今後も楽しみにしている」などの好意的な意見を多く頂戴した。ドラマの内容自体に力があり、13.9%を維持している点で評価できる。しかし、目標は15%以上であり、まだ道半ばである。

土曜ドラマ「斎藤さん2」に関しては、事前から期待感が高く、思った通りの結果が出ている。したがって、7月期の改編ドラマに関しては今のところ成功したと考えているが、先は長いので、手は緩めない。

・レギュラー番組

先週は、レギュラー番組が非常に頑張り、14%台の番組が多かった。日曜の「真相報道 バンキシャ！」「世界の果てまでイッテ Q！」、月曜は「世界まる見え！テレビ特捜部」、火曜は「踊る！さんま御殿」、木曜は「ぐるぐるナインティナイン」、金曜の「金曜ロード SHOW！『るろうに剣心』」など。そして、水曜は「ザ！世界仰天ニュース」が2時間の特番を初めて生放送し、14.0%を獲得した。

また、火曜の「解決！ナイナイアンサー」、「幸せ！ボンビーガール」、水曜ドラマ「Woman」、木曜の「ダウンタウン DX」、日曜の「ザ！鉄腕！DASH」「有吉反省会」などが13%台を獲得した。

レギュラー番組のタイムテーブルは、視聴者の皆さんやスポンサーと日本テレビとの約束事であり、常日頃からレギュラー番組と特別番組のバランスが大切であると考えている。そういう意味で、先週はレギュラー番組で確実に高視聴率を獲得できたことに大きな意味がある。

2. 営業状況

・放送収入

スポットは、6月の単月売上は前年比で約106%。シェアは26%で、単月でトップとなることができた。業種別では、化粧品、トイレタリーや電気機器などが好調だった。7月は、かなり前半から厳しい状況にあり、エリア全体で前年比100%に届くかどうかという状況。8月は飲料や情報・通信、車などが好調で、8月の単月売上は前年比100%を超える見通しで、非常に期待している。スポットの状況は、毎月変動するが、第1四半期は全体で100%に届かないぐらいでとどまっている。

第1四半期の放送収入全体では、タイムが前年を少し上回ったことで、ほぼ前年ベースという状況である。

今後の大いなポイントは、「愛は地球を救う 24時間テレビ36」のタイムセールスである。

・放送外収入

放送外収入に関しては、7月20日に公開した映画「風立ちぬ」の成功が重要だと考え、興行収入を上げるために力を注いでいる。また、本作品はベネチア国際映画祭のコンペティション部門への選出が正式に決定した。今年4月公開の「藁の楯」がカンヌ映画祭のコンペティション部門へ公式に選出されたことで注目を集め、追い風になったこともあり、今回も良い結果につながっていくのではないかと考えている。

3. その他

・選挙報道

テレビ局の役割の 1 つに報道部門がある。そして、日本の国政の将来を左右する選挙、特に国政選挙を放送することは報道機関としてのテレビ局の大きな使命であると考えている。毎回、選挙班や選挙報道にあたるスタッフは、解説者、コメンテーターなどの顔ぶれだけではなく、どのようなテーマを取り上げていくかについても、その時の選挙の特性を考慮しながら工夫し、制作している。しかし、どのような選挙報道番組にするかということについては、これからも検討し、見直していく必要がある。これだけインターネットが普及し、インターネットを使った選挙運動も認められ、いわゆる報道とは別なところできまざまな情報が飛び交っている状況の中で、テレビの選挙報道が従来のままでいいとは思わない。これから選挙報道はどうあるべきかという観点から、報道局の現場を中心にさらに議論し、改革にチャレンジしていきたい。

なお、候補者を応援した方に番組出演していただくにあたり、その番組において選挙運動を行ったり、特定の候補者を応援するようなことになるならば問題であるが、日本テレビの番組基準に照らし、政治的公平性を欠くものでなければ問題はないと考えている。それぞれの出演者について個別に判断している。

・情報番組「スッキリ!!」

今回の件は、ネット詐欺の被害者として放送した人物が、実際には被害者ではなかったことで、視聴者の皆様に誤った情報を伝えてしまった。

取材を依頼した弁護士から紹介されたとはいえ、その裏付けを十分にとらなかつたことが原因であり、最初の取材にあたつたスタッフ、そしてそれに対する上司のチェックなどが十分に機能しなかつたことが問題で、防ぎようがないことではなかつた。

弁護士という職業に対するある種の信頼に基づいてはいたが、それをもって言い訳することは出来ないと考えている。しっかりと裏付けを取つていれば起きるはずがなく、そういう思いを持って常に取材にあたらなければいけない。

深くお詫び申し上げ、そして再発防止に全力を尽くし、今後も教育、研修に努めていく。

(了)